

信夫山の資源を活かした まちづくり検討委員会

第3回検討委員会

令和2年1月29日（水）

目 次

- 1 第2回委員会の振り返り
(資源の保全と活用)
- 2 保全に関する基本的方針
- 3 活用に関する基本的方針
- 4 今後のスケジュール

1 第2回委員会の振り返り

(1) 信夫山の資源の保全

(2) 信夫山の資源を活用した交流創出



岩谷観音と周辺の自然（ふくしま市景観100選より）

(1) 信夫山の資源の保全

①自然・文化・歴史資源の保全（その1:調査、周知）

- 保全・活用を考える前に現状の貴重性の把握が必要
- 資料の収集や専門家による調査、「専門委員会」の設置
- 小学校の授業で信夫山のことを学び、訪れる仕組みを教育委員会と一緒に作っていけばよいのでは
- 何が重要で貴重なのかを様々な方法で発信する必要がある
- 市民が気付いていない貴重さを伝える努力が必要
- 知ってもらうには、中央のマスコミに取り上げてもらうのがよい
- 市政だよりやJAの広報誌での情報発信が可能では
- ガイドブックは個々に出すより官民集まって作るとよいのでは
- ジオラマを製作・設置すれば来訪者が理解を深めやすいのではないか

(1) 信夫山の資源の保全

①自然・文化・歴史資源の保全（その1:調査、周知）

- ▶ 貴重な資源がたくさんあるが市民の関心が薄い、忘れ去られるおそれがある
- ▶ 専門的な見地からの資源の整理がなされていない
- ▶ 学習の仕組み、情報発信方法の検討

<考え方> ~ 知る・学ぶ ~

- 信夫山の資源の保全・活用を考えるにあたり、信夫山の現状を専門的な視点で正確に把握し、その情報を共有することが必要です。
- 様々な主体が自然・信仰・文化・歴史資源に関わる気運を高めるためにも、資源を積極的に公開し、知り、触れる機会を創出することが必要です。

(1) 信夫山の資源の保全

①自然・文化・歴史資源の保全（その2:自然）

- 自然を壊さず美しい信夫山を残したい
- 現状を維持した活用を基本にすべき
- 各種規制を緩めることなく信夫山を守り継ぐべき
- 広大な森林や畑をどう守っていくか検討すべき
- 特殊な地質により成り立つ自然林や地形は学術上貴重であり、防災上やむを得ない場合を除き開発すべきでない

▶ 貴重な資源がたくさんあるが市民の関心が薄い、忘れ去られるおそれがある

<考え方> ～ 守り、育む（自然環境） ～

信夫山のもつ良好な自然環境や多面的な機能（土地の保全、生物の多様性の保全、快適な環境の形成、保健休養・レクリエーション、生産）を保全する必要があります。

(1) 信夫山の資源の保全

①自然・文化・歴史資源の保全（その3：文化・歴史）

- 里山なので周辺地域の人々の関わりが深い山
- 古代から信達一円の信仰の山として崇められてきたことを踏まえ、自然と歴史を尊重した保全が望まれる
- 福島では数少ない伝統芸能の太々神楽が現在も継承されている
- 住民の協力を得て史跡周辺の景観配慮ができないか

▶ 貴重な資源がたくさんあるが市民の関心が薄い、忘れ去られるおそれがある

<考え方> ～ 守り、育む（信仰・文化・歴史資源） ～

先人から守り伝えられた文化や行事、貴重な歴史的資源は、途絶えることのないよう守り、後世に継承していく必要があります。

(1) 信夫山の資源の保全

①自然・文化・歴史資源の保全（その4:眺望）

- 北側の景色が素晴らしい、眺望をもっと生かせないか
- 北側まで、市内全体が見られる展望
- 自然を壊さず美しい信夫山を残したい

- ▶人口が減るなか、森林・農地並びに眺望などの魅力的な資源が荒廃して行く
- ▶不法投棄も発生している
- ▶市内全体を見渡せる新たな展望台の検討

<考え方> ~ 見る・見える・過ごす ~

自然や文化・歴史を感じ、四季折々の彩を見せる信夫山は、積極的に保全し次世代に引き継ぐ必要があります。

(1) 信夫山の資源の保全

②防災機能等の充実

- 汲み取り式のトイレは若い人には抵抗があるのでは
- 街灯がないあるいは壊れている箇所がある
- 倒木等に関し、最低限の維持管理・保全活動はしてほしい

▶自然環境を保全することで森林や農地のもつ防災機能が維持できる

▶公園のもつ防災機能の向上と災害時の案内・誘導の検討

<考え方> ~ いつも安心な信夫山 ~

- 斜面に林立している樹林・樹木・農地等は土砂流出・崩壊防止機能も兼ね備えており、この機能を損なわぬよう良好な樹林・樹木・農地の維持が必要です。
- 公園における平地は、地震や火災などの一時避難や延焼防止、支援活動の拠点などの機能も備えており、災害から身を守るための施設の充実が必要です。

(2) 信夫山の資源を活用した交流創出

①自然・歴史的・文化的な資源を活用した交流創出

- 信夫山を訪れても物足りないという意見もあるが、貴重なものをきちんとわかるようにしておけば違おうだろう
- 全体をミュージアムと捉えての施設整備を望む
- ミュージアムとしての価値があることを理解すること、そのための努力が必要
- 今後も各種規制を緩めることなく信夫山を守り継ぐべき
- 各種規制を取り外し、自然との調和を考慮しながらデザインを描けるよう要望したい
- 市街化調整区域の特例等の緩和
- 参考にすべきは自然公園と考える
- 都市公園的な考え方は不適切と考える
- 里山なので住む人たちが利用しやすくあるべき
- 県外からもお参りに来た信仰の山だということも重要

- 参加型イベントを増やしてもっと行きやすいイメージに
- 古関裕而と信夫山を結び付けるものはないか
- 烏ヶ崎周辺に大規模な桜の公園を整備
- 冬はイルミネーションで信夫山全体を照らす
- 神社等の夜間ライトアップはできないか
- 太々神楽を知ってもらいたい（元々六供のものであったが現在は御山地区で継承されている伝統芸能）
- 太々神楽保存会と御山敬神会(暁まいりの大わらじ作り等を担当)の両方を知ると、関連性が見え、横の繋がりができた
- 最小限のトイレと休憩所の整備
- 道路・駐車場の整備は必要に迫られた段階でよいのでは
- 専門的意見による必要な整備
- 道路が狭い箇所はせめて側溝に蓋を設ける等の処置を望む
- 子供を山に行かせるのは心配な面もある、歩いて登るのは危険
- 歩いて初めて気づくことがある
- 来た人を満足させられる「何か」が何なのかを考える必要がある

- ガイドセンターは眺望はよいが、どう行くかが課題
- 入口のわかりやすい場所に案内人が常駐する施設があるとよい
- 官がガイドセンターの施設を整備し、民が運営する方法もある
- 上まで車で行くのではなく、車を置ける場所から行ける方策
- 駐車場を麓や公園外に確保し、小型電気自動車で展望台等を回る
- ケーブルカー、ゴンドラ、リフト等（昔はたくさん要望が出た）
- 岩谷観音、羽黒神社、展望台など、メインの資産は観光しやすくメインのルート作成と観光地としての整備が必要
- 信夫山を知るための活動や保全・活用については長年民間に任せられていたため一貫性のない個々の活動となっている
- 今後は行政が核となり、市民コンセンサスを得ながら、民間団体に協力を得ていくことで、大きな成果が期待できるのでは
- 市政だよりやJAの広報誌での情報発信が可能では
- ガイドブックは個々に出すより官民集まって作るとよいのでは
- 自然観察会、歴史案内等の現地解説の機会を設ける必要がある
- 信夫山のロゴマークがあるとよいかもしれない
- 放射線量に不安が残る

(2) 信夫山の資源を活用した交流創出

①自然・歴史的・文化的な資源を活用した交流創出

- ▶資源を活用したイベントの企画や開催をしやすい環境整備の検討
- ▶公園内に交流施設、トレッキングコース（観光・参拝ルート）の検討

<考え方> ～ 集い楽しむ信夫山 ～

- 自然・信仰・文化・歴史などの資源を適切に保存する一方で、文化を共有する人々の絆を強めたり、観光・交流資源として有効に活用したりするなど、伝統や歴史が持つ本当の魅力を活かすことが必要です。
- レクリエーション・交流活動の拠点として、公園・広場・遊歩道など質の高い機能の充実が必要です。

(2) 信夫山の資源を活用した交流創出

②信夫山へのアクセスと連携

- 駅前と信夫山の入口に各 1 か所の案内サインがほしい
- サインに全体的な統一性がほしい、一部老朽化している
- QRコード等を利用し画像で説明すると若い人にもなじむのでは
- 街なかや入口に案内を兼ねた信夫山資料展示館が必要
- タクシー会社と連携し、駅から展望台往復コースを設定
- 10人乗り程度の乗合タクシー等を駅から信夫山まで周回させ、乗降フリー区間を設け格安料金で運行
- レンタサイクル貸出所を市役所や競馬周辺にも設置
- レンタサイクルに電動アシスト付き自転車を導入
- 観光客はいつ来るかわからないので、周辺施設の休館日も検討しては

(2) 信夫山の資源を活用した交流創出

②信夫山へのアクセスと連携

▶信夫山へのアクセスと周辺との連携の検討

<考え方> ～ 楽しみながら信夫山へ ～

自然・歴史的資源が豊富で、潤いと憩いの場を提供し、文化を感じることもできる信夫山と街なかとの連携が必要です。

2 保全に関する基本的方針

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

- ① 現状の調査、評価と周知
- ② 豊かな自然環境の保全
- ③ 貴重な信仰・文化・歴史資源の保全
- ④ 風景と眺望の保全

(2) 防災機能の維持

- ① 森林及び農地のもつ防災機能の維持
- ② 公園の防災機能等の充実



(1) 自然・文化・歴史資源の保全

① 現状の調査、評価と周知

<考え方>

～ 知る・学ぶ ～

- 信夫山の資源の保全・活用を考えるにあたり、信夫山の現状を専門的な視点で正確に把握し、その情報を共有することが必要です。
- 様々な主体が自然・信仰・文化・歴史資源に関わる気運を高めるためにも、資源を積極的に公開し、知り、触れる機会を創出することが必要です。

<具体的な事業や対策の例>

■:委員、市民の意見
■:その他想定される施策

- 自然・歴史・文化ごとの専門委員会の設置
- 専門家による資源調査
- 重要資源の整理と記録・保存
- 重要資源を市民が共有できる仕組みづくり
- ガイドブックの作成
- 市民講座の開催(観察会など)
- 地域の歴史・文化に関する教育
- 清掃活動への参加促進

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

① 現状の調査、評価と周知

～ 知る・学ぶ ～

<基本的な方針>

- 信夫山の自然・文化的・歴史的資源などに関する資料の収集、調査、記録保存を行い、適切に保全管理することが重要であると考えます。
- これらの自然・文化的・歴史的な様々な資源を専門的見地から評価し、市民が共有できる場の設置が必要であると考えます。
- 信夫山や学習センターなどで学ぶ機会の提供を通じて、市民が学習・研究活動へ参加することや、学校教育において、自然・文化・歴史などを教材とする学習の充実を図ることが重要であると考えます。

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

② 豊かな自然環境の保全

<考え方> ～ 守り、育む ～

信夫山のもつ良好な自然環境や多面的な機能（土地の保全、生物の多様性の保全、快適な環境の形成、保健休養・レクリエーション、生産）を保全する必要があります。

<具体的な事業や対策の例>

- ボランティア等による巡視
- 生態系に応じた植生管理
- 所有者の負担を社会全体でサポートする仕組みづくり
- 野鳥や小動物等の生育を阻害しない適切な観察ルートの整備
- 施設の適切な案内や安全対策
- トイレや駐車場等の便益施設の適切な配置計画

■ :委員、市民の意見
■ :その他想定される施策

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

② 豊かな自然環境の保全

～ 守り、育む ～

<基本的な方針>

- この里山を保全するには生態系を理解し、人と自然が調和した環境整備が重要であると考えます。
- 希少な野生生物の保護を進めるため、地方公共団体、地域住民及び環境保護に関心が高いNPO等と連携し、モニタリングや植物の盗採掘の防止等の巡視など、希少な野生生物の生育・生息環境の保全に取り組むことが重要であると考えます。

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

③ 貴重な信仰・文化・歴史資源の保全

<考え方> ～ 守り、育む ～

先人から守り伝えられた文化や行事、貴重な歴史的資源は、途絶えることのないよう守り、後世に継承していく必要があります。

<具体的な事業や対策の例>

■:委員、市民の意見
■:その他想定される施策

- 所有者の負担を社会全体でサポートする仕組みづくり
- 文化・伝統の保護団体の交流の場の整備

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

③ 貴重な信仰・文化・歴史資源の保全

～ 守り、育む ～

<基本的な方針>

- 信夫山の魅力を高めるため、貴重な資源を保全するための施設の整備・充実を図ることが重要であると考えます。
- 文化的・歴史的資源などに関し、文化財所有者が行う修理をはじめ、市民や企業などが自主的に行う文化財保護活動を支援することが重要であると考えます。

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

④ 風景と眺望の保全

<考え方> ～ 見る・見える・過ごす ～

自然や文化・歴史を感じ、四季折々の彩を見せる信夫山は、積極的に保全し次世代に引き継ぐ必要があります。

<具体的な事業や対策の例>

■ : 委員、市民の意見
■ : その他想定される施策

- 現行の土地利用の維持
- 市街化調整区域の特例の緩和
- ボランティア等による清掃活動の促進
- 住民や観光客が参加して維持管理するための仕組みづくり
- 良好な景観を形成するためのルールづくり
- 必要最小限の樹木の伐採・剪定による視点場の整備

(1) 自然・文化・歴史資源の保全

④ 風景と眺望の保全

～ 見る・見える・過ごす ～

<基本的な方針>

- 良好な自然景観を維持し、全体の環境保全を図るため、現在の土地利用を継続し、山林や農地の適正な保全管理が重要であると考えます。
- 既存・新たな視点場の維持・整備における樹木等の伐採・剪定は、必要最小限とすることが重要であると考えます。
- 良好な歴史・文化景観や歴史的建造物、集落のたたずまい等についても周辺環境に配慮し保全することが重要であると考えます。
- 保存にあたっては、市民・事業者・行政等が景観の価値を共有し、共同で取り組むことが重要であると考えます。

(2) 防災機能の維持

① 森林及び農地のもつ防災機能の維持

＜考え方＞ ～ いつも安心な信夫山 ～

斜面に林立している樹林・樹木・農地等は土砂流出・崩壊防止機能も兼ね備えており、この機能を損なわぬよう良好な樹木・農地の維持が必要です。

＜具体的な事業や対策の例＞

■:委員、市民の意見 ■:その他想定される施策

- 所有者の負担を社会全体でサポートする仕組みづくり
- ボランティア等による維持管理（下草刈りや枝打ち）

＜基本的な方針＞

- 土砂の崩壊その他の災害の防備・生活の保全を図るため、保安林や良好な農地を維持することが重要であると考えます。
- 樹林密度の適正な管理（除伐・間伐）や樹木の更新による森林の活性化が重要であると考えます。

(2) 防災機能の維持

② 公園の防災機能等の充実

<考え方> ～ いつも安心な信夫山 ～

公園における平地は、地震や火災などの一時避難や延焼防止、支援活動の拠点などの機能も備えており、災害から身を守るための施設の充実が必要です。

<具体的な事業や対策の例>

■:委員、市民の意見
■:その他想定される施策

- 案内板による危険個所の周知
- 一時避難所としての防災機能を備えた公園施設の充実
- 公園施設（トイレ等）のバリアフリー化

<基本的な方針>

災害等の非常時を想定した案内サインや設備の充実を図るべきと考えます。

3 活用に関する基本的方針

- (1) 自然・歴史・文化資源を活用した交流創出
- (2) 街なかと連携した交通手段の充実と街なみ・歩行空間の形成



(1) 自然・歴史・文化資源を活用した交流創出

<考え方> ~ 集い楽しむ信夫山 ~

- 自然・信仰・文化・歴史などの資源を適切に保存する一方で、文化を共有する人々の絆を強めたり、観光・交流資源として有効に活用したりするなど、伝統や歴史が持つ本当の魅力を活かすことが必要です。
- レクリエーション・交流活動の拠点として、公園・広場・遊歩道など質の高い機能の充実が必要です。

(1) 自然・歴史・文化資源を活用した交流創出

～ 集い楽しむ信夫山 ～

<具体的な事業や対策の例>

- 市政だより等を活用した広報
 - 地点ごとの放射線量の表示
 - 所有者の負担を社会全体でサポートする仕組みづくり
 - 伝統行事等の運営組織の活性化
 - 文化資源を活用したソフト事業への補助
 - ロゴマークの作成
 - 大規模なイベントにおける周辺公共施設との駐車場の共有
 - 展望台周遊ルート的小型電気自動車の運行
 - 施設の適切な案内や安全対策
 - 古民家の再生による交流機能の整備
 - 公園の計画的な施設の修繕・更新・によるレクリエーション機能の充実
 - 安全な歩行のための道路整備
 - 市内全域を見渡せる新たな視点場の整備（必要最小限の伐採等）
 - 公園のトイレや遊具の更新・整備（バリアフリー化）
 - 最小限のトイレと休憩所の整備
 - ガイダンス設備の整備
- : 委員、市民の意見
■ : その他想定される施策
- 太々神楽の発表の場を設ける
 - 適正な駐車場の配置計画
 - 信夫山まるごとミュージアム

(1) 自然・歴史・文化資源を活用した交流創出

～ 集い楽しむ信夫山 ～

＜基本的な方針＞

- 市民の学習活動や文化活動の場として積極的に活用できるように整備するとともに、信夫山の文化遺産をまちづくりや観光・交流の資源として有効に活用することが重要であると考えます。
- 自然景観を活用するため、既存・新たな視点場の維持・整備における樹木等の伐採・剪定は、必要最小限とすることが重要であると考えます。
- 伝統芸能の保存団体や指導者、後継者、団体間の交流促進も含め、地域に根差した継承活動を支援することが重要であると考えます。

- 市民が伝統行事に参加しやすい環境づくりも重要であると考えます。
- 自然観察やレクリエーション・交流活動の拠点となる公園・広場・遊歩道等においては、施設の整備・修繕・更新により一層の機能充実を図るとともに、安全に安心して利用できる環境整備が重要であると考えます。これらの整備等にあたっては、市民・所有者(事業者)・行政等が連携し取り組むことも重要であると考えます。
- 市の広報誌、ホームページ等による情報発信を行うことはもとより、官民が連携し利用者のマナーの向上についても啓発を行うべきと考えます。

(2) 街なかと連携した交通手段の充実と 街なみ・歩行空間の形成

<考え方> ～ 楽しみながら信夫山へ ～

自然・歴史的資源が豊富で、潤いと憩いの場を提供し、文化を感じることのできる信夫山と街なかとの連携が必要です。

<具体的な事業や対策の例>

- 信夫山を背景とした音楽と花のまちづくり
- 花によるおもてなし事業の拡充
- タクシー会社等におけるパッケージツアー化
- 電動アシスト付き自転車の導入
- レンタサイクル貸出所の増設
- 統一感のある案内サインの整備
- 駅からのルート案内サインの整備
- QRコードを利用した案内
- 街なかに信夫山資料館の整備

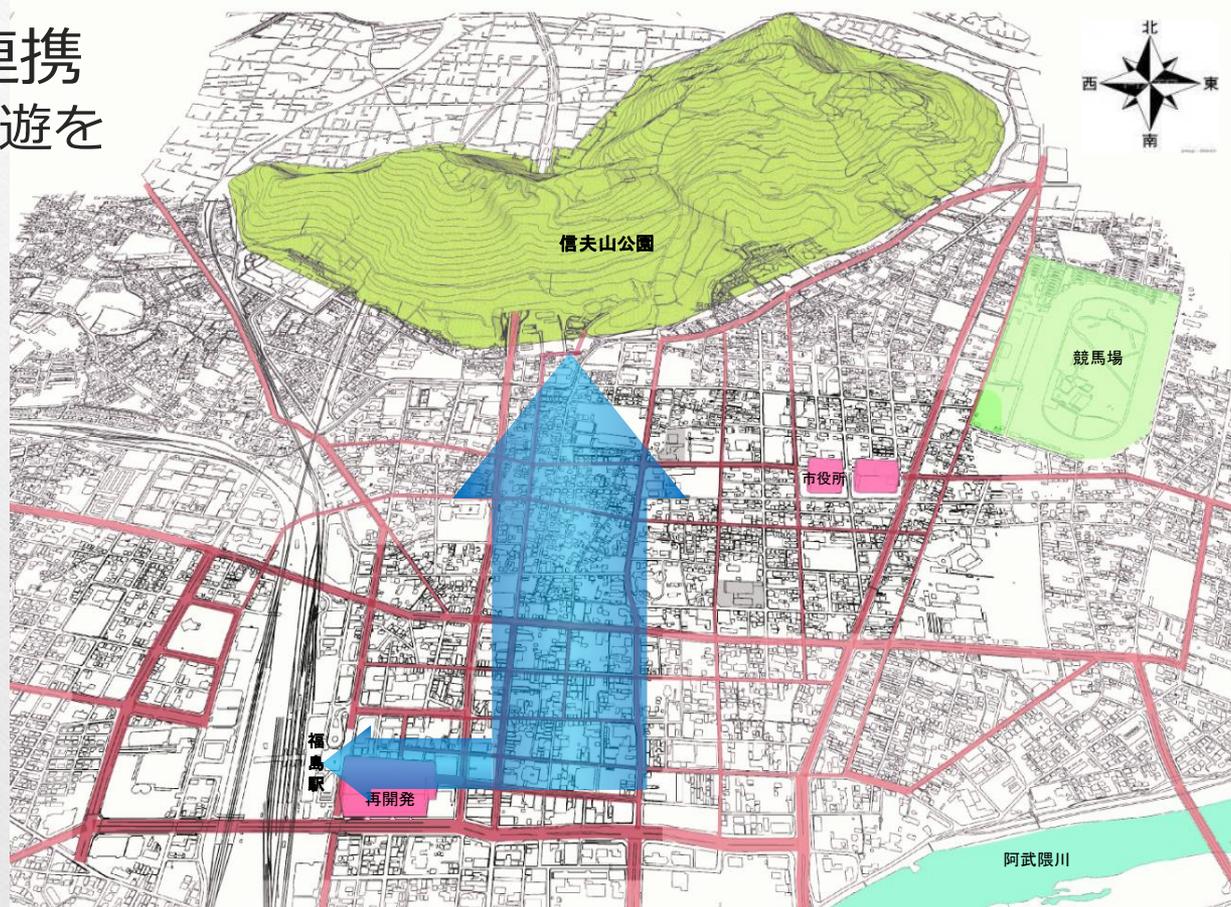
■ :委員、市民の意見
■ :その他想定される施策

(2) 街なかと連携した交通手段の充実と 街なみ・歩行空間の形成

～ 楽しみながら信夫山へ ～

■ 街なかとの連携

- ・ 街なかからの回遊を推進するには？
- ・ 本市の個性を生かした街なみや歩行空間の形成について



(2) 街なかと連携した交通手段の充実と 街なみ・歩行空間の形成

～ 楽しみながら信夫山へ ～

<基本的な方針>

- 信夫山と街なかの円滑な移動を実現する交通手段や、分かりやすい案内誘導を検討すべきと考えます。
- 街なかから歩いて楽しめる街なみや、信夫山散策の延長で街なかまで足を延ばしたくなるような魅力的な歩行空間を創出すべきと考えます。
- 信夫山に由来のある“わらじ”、“桜”、“花”などの活用、あるいは古関裕而と関連した“音楽”との融合などにより街なかの賑わいの創出を図るべきと考えます。

4 今後のスケジュール

第4回信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会について

日時：2月25日（火）13：30～15：30

場所：市民会館 第2ホール

内容：①第3回委員会の振り返り（方向性について）
②基本的方針について